

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471001303	事業の開始年月日	平成16年10月
		指定年月日	平成16年10月
法人名	有限会社 横浜ヒューマンヘルスケアシステムズ		
事業所名	グループホーム横浜名瀬・彩り		
所在地	(〒245-0051) 横浜市戸塚区名瀬町793-2		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果 市町村受理日	平成23年3月8日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「人生の最終章、自分らしく生き抜く事を実現出来る我が家でありたい」というスローガンのもと、入居された方には、出来るだけ我が儘（良い意味で）に日々を過ごして頂けたら思っています。出来る限り入居者の訴えには耳を傾け、支援させて頂いておりますので、少々無理難題にも応えております。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成22年11月18日	評価機関 評価決定日	平成23年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【ホームの立地と室内】 このホームは東戸塚駅からバスを利用して約20分、閑静な住宅地内にある。居間を始め、浴室、手洗い所などの各スペースは十分で、隅々まで清掃も行き届き清潔である。</p> <p>【経営理念と介護サービス】 ホームでは、「家庭的な雰囲気の中で～安全で暖かい生活を～」などを理念として掲げ、利用者第一を基本に、職員は勉強会や研修会を通じてより良いケアのあり方を模索し、明るく元気をモットーに、一丸となって支援している。</p> <p>【健康管理・安全管理】 協力病院医師による訪問診療及び看護師による健康チェックは、それぞれ毎週あり、歯科医の支援も随時ある。防災面では年2回夜間を想定した消防訓練を実施している。スプリンクラーや自動火災通報装置、熱感知器等を設置し、水・食料等の備蓄もある。</p> <p>【行事と利用者の楽しみ】 行事は、初詣、節分、ひな祭り、お花見、七夕・彩り祭りなどの伝統文化や季節にちなんだ行事を大切にしている。また、利用者は地域の方々や中学校の子ども達との交流、生花や書道のクラブ、音楽療法などボランティアの来訪を楽しみにしている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム横浜名瀬・彩り
ユニット名	2 F

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オープン当初より変わらぬ理念を持っている。定期的に理念についての研修を行い実践に繋げることができるよう心がけている。すぐ見られる所にも添付している。	理念に加え「具体的な考え方」が示されている。理念と共に玄関や事務室に掲示され、研修会やカンファレンス等で十分話し合わせ、職員はケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の施設との交流、中学校との交流を行っている。ボランティアも地域の方々に依頼し、様々な活動に協力して頂いている。月1回ホーム周辺の掃除を入居者と共に行っている。	自治会に加入している。地域の夏祭りや中学校の体験学習等での交流がある。月に1回、近隣のゴミ拾いを行っており、地域の方とコミュニケーションを取っている。名瀬コミュニティハウスの催しに出展し、地域との連携を推進すべく努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	21年9月に認知症の方を介護する家族に対して、認知症についての情報提供をした。彩り祭りを1年に1度開催し、地域へ発信している。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回実施しており、様々な意見を頂き、実践に活かしている。	本会議は年4回開催され、ホームから状況報告、参加者からは助言、提案、地域情報の提供がある。防災や「彩り祭り」について話し合ったり、地域清掃への参加の提案があり、即実行に移すなど、サービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所主催の連絡会には必ず参加し、協力関係を築けるように取り組んでいる。	地域ケアプラザと共催で「認知症」についての講習会を開催している。区主催のグループホーム連絡会に参加し、空き状況・スプリンクラーの設置状況を報告し、担当者や他のホームと交流を図り、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームとしても拘束ゼロの考え方があり、スタッフにも周知徹底している。虐待・身体拘束のマニュアルを整備し、勉強会も実施している。	ホームの教育委員会で関係研修の年間計画が立案され、勉強会等でその基本精神を学び浸透化を図っている。ユニットの出入り口は見守りを徹底させオープンであるが、玄関は利用者の事故防止のため施錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が研修に参加して、それを研修報告の場でフィードバックし、周知徹底を図っている。 外部への研修にスタッフも参加し、日頃から学べる機会を設けている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修などに参加して学んでいる。必要と考えられる家族に対して個別に周知している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明、重要事項の説明は時間をかけて行っている。新たな加算を算定する場合は必ず、文章にて説明し、理解を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。ホーム内研修にも利用者が参加し、そこで意見を表出できるような環境を提供している。 家族との懇談会も実施し色々な意見も伺った。	家族の懇談会を年1回開催し、ホームへの意見を聞いたり、家族同士の苦労や思いをお互いに共有する機会になっている。また訪問時に声掛けをして、意見、要望等何でも言ってもらえるよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回カンファレンス、勉強会、委員会を実施し広く意見を聞いている。管理者による個人面談も1年に1回は行っている。	年1回スタッフとの面談があり、意向確認や振り返りの機会になっている。また、正社員のためのカンファレンス、全体でのカンファレンスが毎月開かれ、そこでも意見や提案が出されている。勉強会や業務改善委員会においても同様の機会がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談によりスタッフの学びたい事を聞き、研修に繋げている。業務改善委員会を設置し労働環境を整える努力をしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のホーム内勉強会、外部の研修を受講し、ケアの質の向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修を実施したり、GH協会の研修に参加したりして横の関係を構築できるように努めている。彩り祭り際には近隣のGHにも声をかけ交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して生活を出来るような継続性を工夫している。（例一人での散歩を継続。お酒、タバコの継続など等）継続性を重視する事で入居後の生活に安心感を持てる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけて面談を実施している。その中で様々な事に耳を傾け、一つずつ解決出来るような話し合いをしている。ホーム入所後も信頼関係を築けるような努力をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	彩り入居を前提に相談に乗らず、本人の状況を勘案しながら必要なサービスを提案している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を入居者とスタッフが一緒に召し上がり、色々とコミュニケーションを図っている。1対1で話す時間や皆で過ごす時間を通じてお互いに学びあっている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1ヶ月に1回入居者の生活状況を家族に報告している。支援方法を変更したり、状態の変化が見られるときは、家族に連絡、相談し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通っていた床屋に行ったり、働いていた所に墓参りを兼ねて行ったりしている。継続できるように家族とも協力して支援している。	彼岸の時期に家族と墓参りに行ったり、一時帰宅したりする利用者もいる。また、友達に手紙を出したり、馴染みの床屋を希望する利用者もある。いずれも一人ひとりの思いを大切にしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションや外出、家事全般を一緒に行う事で、自然と関わり合い、助け合えるような関係を築いている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の前段階で次の生活も穏やかに継続した支援を行えるように相談・支援は行っている。退去後も他施設へ細かい情報提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションをよくはかり、意向等を把握できるように努めている。把握した意向は出来る範囲で支援している。カンファレンスや勉強会の場で一人一人の思いを共有している。	アセスメントシートで、日常的に意向を確認し、利用者の希望や思いの把握に努めている。日々の過ごし方や、食事、外出などについて利用者の意思を尊重している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までに今までの暮らしを把握出来るよう努めている。入居後も本人や家族から話を伺い把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りで一人一人の状態把握に努め実践に生かしている。必要があれば関係各所にも相談し支援している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1回のカンファレンスで話し合った内容をケアプランに反映している。希望した家族とはケアプランカンファレンスを開催し、介護計画を一緒に作成している。	カンファレンス等で計画が利用者に合っているか否かの確認を全職員で行っている。当初は3ヵ月、それ以降は6ヵ月毎に、本人・家族の意向も取り入れたうえで見直しを行っている。必要があればその都度プランに反映させている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕に一人一人の支援についての記録を残している。申し送りノートも活用しながらタイムリーに支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援に関しては当ホーム内で完結している。但し入居者様が喜んでもらえるような行事に関しては、外部からボランティアを呼んだりして実施している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の老人施設とは連絡をとり行事などに参加させて頂いている。中学校とも交流があり入居者の方々はそれらをととても楽しんでいる。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を確認し適切な医療を継続出来るように支援している。本人・家族が望む場合は、かかりつけ医を継続している（現在2名の方が、継続している）。	かかりつけ医には2名が継続して受診している。全体としては協力病院の医師による訪問診療及び訪問看護師の健康チェックが毎週行われている。看護師は24時間オンコール体制で、急な発熱時等には連絡して指示を仰ぐことができる。歯科医も含め適切な医療が受けられるように支援している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日訪問看護師が来所され支援している。オンコール体制なので必要な時に必要な相談が出来る。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、医療機関、家族と連絡を密に取り、早期退院に向けて話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重要事項説明書に明記し、別紙でも説明し同意を頂いている。重度化してきた早期の段階で今後の方向性について話し合っている。必要に応じて医師からも説明している。</p>	<p>「重度化した場合の対応」を明らかにして、契約時にそのことを話し合っている。最近の経験では、家族・医師・看護師などで看取りの担当者会議を開催し、関係者で連携を図り支援したケースがある。職員はその方針を共有して対応した。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>スタッフ全員に消防署主催の普通救命講習を受講する事を義務付けている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防訓練を実施している。運営推進会議の場で地域とどのような協力体制を築けるか話し合っている。</p>	<p>消防署が立会い、夜間を想定した訓練を利用者全員が参加して実施している。スプリンクラーや自動火災通報装置、熱感知器、非常階段等を完備し、水・食料等の備蓄もある。ホームに住居が近い複数名の職員について、緊急動員の試行を行い、夜間の緊急事態に備えている。</p>	<p>自治会との防災全般についての協力体制の構築は、相手があることなので簡単な話ではないが、今後の連携への取り組みに期待している。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては外部・内部の研修を通じて常に学び、実践出来るよう努めている。	接遇マニュアルがあり、職員は利用者の自立・自由をモットーに支援している。各種の研修を通じて実践に活かし、職員の慣れによる不適切な言動には注意している。消灯時間や飲酒等は自由にしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のお茶の時間にその日のスケジュールを皆で話し合っている。個別な働きかけは1対1のコミュニケーションの中から、本人の思いを汲み取れるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	10時のお茶の時間にその日のスケジュールを皆で話し合ったり、一人ひとりに確認して決定している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は本人の意に添って行っている。自ら意思表示出来ない方は、過去の髪型等を家族からお聞きし、支援している。日頃のおしゃれは一緒に選んで支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性の入居者で家事手伝いが好きな方は、一緒に行っている。入居者からのリクエストを1品追加するなど工夫をしている。	調理から片づけまで、できる利用者は手伝っている。職員は利用者と一緒に食事をしながら、介助しつつ会話を楽しんでいた。月に何回か外食の機会があり、利用者は自分の好物を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は外部に依頼し、栄養バランスのとれた食事を提供している。各々の体調、病歴に応じた支援はケアプランに挙げて支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人一人に応じた口腔ケアを毎食後支援をしている。必要に応じて歯科受診も支援している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を支援している。ホームの考え方としても容易にオムツを使用しないように周知徹底をしている。必要に応じてケアプランに挙げ個別支援をしている。	排泄パターンを把握し、自立を目標に介護している。ケースによりケアプランにも盛り込み、定時誘導をしている。失禁の際には保温庫の暖かいタオルを利用するなどの工夫をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の対応としては医師、看護師へ相談して支援している。便秘予防として水分量の確保、運動、食を通して支援している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には2日に1回入浴して頂いている。回数等は本人と相談して決めることもある。時間帯は入浴日に本人に確認して決めている。	毎日入浴を希望する利用者はほとんどいない。入浴は基本的に一日おき、午前中に行い、朝に利用者の希望を聞いて順番を決めている。就寝前の入浴やシャワー浴を希望する利用者もいる。入浴剤は使わず、菖蒲湯やゆず湯など自然の素材を用意することもあるが、大変喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全介助で自ら意思表示の出来ない方は、ある程度生活パターンは決まっている。自立されている方は、その方の生活リズムに任せている。居室には消灯時間を設けていない。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬確認表を作成し、飲み忘れ・誤薬を防ぐよう努めている。薬情報をファイルしてあり、常にスタッフが確認できるようにして理解を深めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物が好きな方に彩り祭りのバザー品を作ってもらったり、料理が好きな方に手伝ってもらったり、お酒が好きな方が晩酌したりと楽しく生甲斐を持って生活出来る様に支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はドライブや散歩に出かけている。その際は行き先はなるべく入居者に決めてもらっている。墓参りも支援している。	周辺は車の往来も少なく、環境にも恵まれているので、外出の機会も多い。近くの公園への散歩やコンビニへの買い物も気軽にでき、職員と利用者1対1の外出も職員体制に余裕がある時には行っている。海ほたるや鎌倉への外食を兼ねたドライブも好評で、利用者は楽しみにしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する入居者に関しては、2～3千円を上限に本人管理して頂いている。しかしそれ以上の金額は事務所金庫で預かり、必要に応じて本人へ渡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方はいないが、電話は本人からの訴えがあったり、家族からの電話があった時に支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には緑を取り入れて、心地良い空間を演出している。太陽光をととても大切にしたりしている。	玄関、廊下、トイレ他全体的にスペースに余裕がある。窓も広く採光も良好で、観葉植物の鉢類、季節の花、壁面には手芸作品、行事の写真等が飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫をしていた。またベランダの家庭農園で、ミニトマトやピーマン・イチゴを植えて収穫を楽しんでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの畳やソファを用いて居心地の良い空間を設けている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人の気に入っている物、使い慣れたものを持ち込んで頂くよう説明している。入居後は相談して居心地の良い空間作りを支援している。	各居室は窓も広く明るく、周辺の緑も眺められ、清掃も行き届いており周辺環境的にも恵まれ落ち着ける雰囲気である。利用者はテレビ、時計、整理ダンス、家族の写真、仏壇等身近な品々を持ち込み居心地よく過ごせるようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計やカレンダーを色々な所に配置し混乱を防いでいる。居室やトイレにも名札をつける等の工夫をしている。		